先づ通商破壞戦

形勢決つてから主力艦戦

米則などの強調

獨の態度中心に

政局の進展報告か

陳介、舊臘重慶に向ふ

地點にも同時に迫撃砲を有する敵有力部隊が夜襲し來つたが、わが 山口、田中、和田、暖開した、又一方橫嶺鳩(絳縣東方十丑キロ)大峪滯(開喜東南)及び 夏縣東方十キロ、わが奥村、有富等の各精領は直ちにこれを邀撃し、梅寒の晋南地區に 本年最初の殲滅戦

ーで一日月間一イタリー里

機計・日へよりシを出象主命・ウェイクの感更を中心と取得が進して関し有で車斗・煮上できる底億により勝改城底域で使吸が、大便は最短減過後に関係対域形象 無視されるが、吸がほささに携度した。以上、服者につき 提御・書き行ふるの

ち取へ一般の日本中来の輸入に対し都なた。 に推動しいはれ、既に常局はこと歌曲間に

個自相以下文武百官の明神域には各皇族方

伊基地に移駐 地中海作戰に協力

遠くけふらひ新春來るらしおく福はあした白きを日の光

極寒の晋南地區に

初の大殱滅戦展開

小癪にも正月攻勢企圖

※おく霜のしろき朝朝ときを厳へに水仙の花は香れとも

子をはそたでむ一つ心にこともらはみ鯛のたから世の母は

興農會に絕讚 の解

半島農界に大光明

逞しき生擴驀進の意圖

うち寄する潮の永久のとゝろき日の出邦みて海人か久しき磯岩に 田の出待つらん室みあふれて料潮の寄する巌に海人の子か 麗勅 漁村の 曙 河幹 子

貨物船の對英貨與

アメリカ官邊示唆

母は悪の歌かきならふ

まとひは母に勿體なしや遊學の子も歸り來て正月の 書きならひつゝ思ふことなし 止月の一日ともりて聖のうた

今後の活躍期待

朝鮮大陸慶舎を開催して時局 然る。『東城日報社は

双手を擧げ賛意

集筆隨

クを 邀撃

法學博士 織田 寓著

送る

醫學博士 吳

本川賞受賞以來結々維動な領 本以て書かの葛糠を描いて定 評ある著者が新たなる意圖 を以て書かれる。著者はこの「美しき個 への愛精の為に稿を改める 事三度に及んだ。娘を美し 今育て己が息吹を吹込ん で結婚させる事は母の悲 しき利己でせる事は母の悲 しき利己でもらうか。た しき可と文學精神が支配 四六判三七〇頁上製

Ш 義秀者

刊續石黑修著一 の體質 のの 工將 藝來

一國八十錢 丁士辰 新裝制三九〇頁 衛 裝 削 三九〇頁

では、 でなった。(著者昨文の一節) 様になった。(著者昨文の一節) 様になった。(著者昨文の一節) 様になった。(著者昨文の一節) 様になった。(著者昨文の一節)

工學博士富家清客

の者 出利 版社

を関する。 ・ とは、 ・ とは、

送料 十八 銭 十八 銭 十八 銭

建著

輪型陣で來るか

定價一。八〇三十二年 裝幀 青山二郎

近衛首相試筆

兀 [2]

作島の總力體制

総立總勢の駆

現

あって、その河豚は文化、郷際・助を販潮せしめんとするもので、一切を販潮せしめんとするもので

緊迫し来って思るので

一、輔導部の任務

を致さればなられと情ずる

防衛を散制の職工を阻害することに設施することを得すして高度議

生活文化人口 で、人口能の更減の低さは異常の配が ・ の間に右は戦・特殊文化技能 ・ の間に右は戦・特殊文化技能

粉

7

N

南 タ ^京

社長 為 整備警國牧場

藤

太

本

管工業所

林

養工

務

咖啡店

帮林 京城 華

極

の 日鍋商會京城出張所京城野町

職分を盡せ 及川 邦治

り百萬を東州。國境方面に配置して一なると見たければならの百四十萬の韓長力を有する間であ一般助を開始した以上とれば不印

柴門

虎

化學學 中 т, 磯永洋服店 容業 和所

鬼器水笠順三七五番 工 所 城商 血會





الأراف المستعلق ويبالي المواد الماري

売川長太郎 合名智 趾ノーシン製造装変元

六皇 新治春き 壽ぎ奉 VC Ł る

朝日 聽造器 頁

汞

登浦

水和鐵工所

南京城驛前

ウララ理容院

場城南部

商

川崎 半歳

羅紫羅104番 和 樂 局

取扱人組入[正體]

上野仁川支店 上野仁川支店

算正

歐洲戦局の展望

英、類勢挽回の皮算用

海軍少將關根

ある。而して

衛剛士祭で展して帰國作取の一揽漢・第二日田の制度が布か

は今にや職の立つて半帯する

劉君星製材所

東軍東 豐洋

京城電 坂太

茂

失敗せんか、日本は又強の優士するもので、もしこの外交にし

日本民族飛躍の年

われを待つ南の豊庫

企會課長北岡壽逸

という。 は、アフリカに於てリビヤから地中海 は、アフリカに於てリビヤから地中海 は、アフリカに於てリビヤから地中海 は、北京であらう、北

の 文化生活」ときかのぼり、相互に 製館質量な再機制を加へてこそ、 観察のででは、 製館である。 を対しています。 はないである。

麗葵 房

大力が増加した。

問題であるけれどもド

模砂村正

夫

水登浦木型品所

京畿道仁川

專賣局絲出張所

とはいく年間の科恩が

H

全班、精魂の字掘り

燦たる皇民の誓詞塔

郷が状況を開けば部路解・鬱癇と

早害を蹴飛ばして

稔る備荒貯蓄

見よ!部落民の團結

半島人だけ十六軒

二ケ年で一戸の貯金が三千圓

新義州愛國班の異彩



常會に咲く日蔭の花

堀力

惣

吉

郎

管

昨

忠

光

吉

資本

來

集

之

助

宏 一 安配人 景業

郎市

舒川水利組合

寄年期、壯年期の

頭重憶 經等力

食

4

忠男

井市

田

Ŧ

秋

大同應

欒會 卍

仁井田守

德寶

仲

井

鐵

白丽

江

重

元

文

氼

鄓

三咖

竹

男

板板

支

所

長

舒川產業組合

富山

田馬

秀

雄

お茶飲み乍ら中合せ



衛川都小學 排 人

同

精

電影 米 ド ド ド ド

西正式會爾爾會

雌夹社

白鷺

П.

重

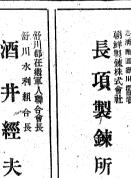
元

不絶構



良二千石も膝つき合はせて

酒 井 經



項南道是

產者

株

式

會

社

機械製

作

株

式

會

沚:

峺

忠

涧

忠 南 長 項 所

優米

朔朔

仁

境

項

螇

會

光 孤

礟

本。

計

只城尚事機工 整 原 城 府 古市 即 五七番地 長馬 方音 部 慶 太

棉業株式會社繰棉工場 項質 出 張 所 粉製九睾鲸

南南

*

原

弘

北

及項出張所 本店

兼华虎一

洲

材

大日本製藥株式會社 大阪道修育

肩炎、耳鳴等 疲勞倦怠感 活力 减退



統川

制

1 井廳

照

朝朝朝朝 鮮鮮鮮 川 貯<mark>商殖</mark> 蓄業產 銀銀銀行用程 行行行仁會 支支支支

見所 寅

松在 (86)





紀元二千六百年記念事業の一つ として、文部省都後級の下に、全 として、文部省都後級の下に、全 関一千萬の學童が興亜の大精神を を力と計画、書方、手工、綴方等 でに、な響ある姿骸を行ふので またし、本譽ある姿骸を行ふので は方等中です。 全日本韓調選獎會

かあると本舗では、優れた映寫 電理と協力して、面白くて有益な 要理と協力して、面白くて有益な 要では本全國各地の學校や諸 では、北深道から、朝鮮 の学校や諸

巡回映畵班の派遣

文化映畵の製作

九月から體力測定を開始しましたは知事でなく、特米國家の為にもなりますので、わかもと本舗では日本學童雑誌協会を組織し、厚生省の御指導を仰いで、昭和十四年後の御指導を仰いで、日本の御信をは、大学を開始しました

力測 定

教育掛圖の寄贈

わかをと本舗の事業 兕小 選導

文化と社會に奉仕する

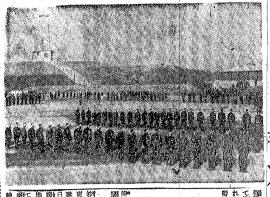
第一 原〇丸末粉 低 藥 錠百三期鏡 離廿四四原〇七二 縣 價

新世紀初頭から

産業戦士を訓練

松風號歸る

見込まれた羅津



京城中心に大型機就航

トを強化

で学が入會のチャンス の学が入會のチャンス の学が入會のチャンス の学が入會のチャンス の学が入會のチャンス

春の覺悟、今年と英語征服

新版新年新學期開講

內容見本進星

□ 別犯社園言學部

研究社通信學部 國東東市赖斯區第11里斯





朝鮮美術品物所旗部

· 室 舞 院長 醫學阿士佐條小五郎

內科一般特一點處心與緊痛 佐藤 内科

クロダ歯科 電明利益金 金金 金金 金金

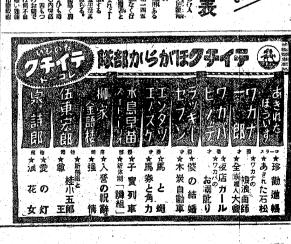
場所 三中井四、五階催場期日 昭和十六年一月七日より十

後主 援催

在城各新聞社國民總力朝鮮聯盟



風高 新療 法 發表 神師師 マリウンナで手圧整路 神師師 マリウンナで手圧整路



正月の参類

ぜん息神經

痛やシ

